

ボランティア



発行 (福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

Osaka

Vol. 38
2004 Autumn

『特集』

若者たちのボランティア、NPO活動



Hello! ボランティアセンター

河内長野市社会福祉協議会 ボランティアセンター

河内長野市大師町26-1
TEL 0721-65-0133
FAX 0721-65-0143

自主的なボラ連運営が目標

ボラ連を構成する12のグループに属するボランティアが約250名、個人登録のボランティアが約190名、延べにすると400名以上の市民ボランティアを組織している河内長野市ボランティアセンター。それだけにボランティア連絡会の組織運営も充実しており、全体会が年4回、そして世話人会が毎月開かれ、ここでさまざまな情報交換

と活動調整が行われています。

また企画委員会、広報委員会、運営委員会の3つの委員会が設置されていて、それぞれ「ボラ連事業の企画運営、研修や市民啓発」「機関紙発行」

「ボランティアセンターの運営、予算・決算書の作成」などの仕事を分担しています。

「ボラ連はベテランのボランティアさんが多く、そうした人たちによる、自主的な組織運営が行われています。ボラ連は独自の会則を持っていますし、またボランティアセンターは独立した建物になっているんですが、ここの運営もボラ連にお願いしています。文字通り市民主導のボラセンで、私などは日々、なにかと皆さんに教えていただいているのが実情なんです」と社協職員の浦田真樹さん。

登録団体は音読、点読、手話、福祉施設サポート…など、それぞれの分野の活動に取り組んでいますが、ボラ連と社協の共同企画で福祉施設見学会を催したり、またV入門講座を開催したりする一方、学校の総合的学習等に協力する「福祉学習サポーター」を組織しているのも河内長野の特徴です。「これについては現在50~60人の登録メンバーがいますが、学校現場や地域からも喜んでいただいています」と浦田さん。いろんな面で「学べるもの」が多くあるボランティアセンターです。



運営委員会の皆さん



浦田真樹さんと世話人代表の宮田信直さん

田尻町社会福祉協議会 田尻町ボランティアセンター

泉南郡田尻町大字嘉祥寺883-1
TEL 0724-66-5015
FAX 0724-66-8841

大阪府内で初のエコマネー

とれとれ、びちびちの魚介類が並ぶ朝市で知られる田尻漁港。その側に建つ近代的建物が総合保健福祉センター（たじりふれあいセンター）で、田尻町ボラン



ふれあいセンターでのボランティア祭り

ティアセンターは平成14年7月、ここに開設されました。

まだまだ若いボランティアセンターですが、手話サークルや朗読ボランティア、給食ボランティアなどの10団体で構成するボランティア連絡会を中心に、多彩な活動が展開されています。

中でもユニークで活発な活動を展開しているのがエコマネーの取り組み。エコマネーとは、生活のなかでの助け合いやボランティアのサービスを、住民どうしでやりとりする地域通貨のことですが、田尻町では平成13年に「エコマネー実験実行委員会」を地元住民らでつくり、地域通貨「タージ」を発行。「掃除します」「犬の散歩をします」「パソコン教えます」「家庭菜園の指導をします」といった自分のしてあげられること（シーズ）と、「幼稚園のお迎えをしてほしい」「窓ガラス、網戸の掃除をしてほしい」「買い物をお願いしたい」といった自分のしてほしいこと（ニーズ）をつなぐシステムとして、いまではすっかり地域に定着。なかでも体の不自由な高齢者に喜ばれているといいます。「大阪府内では初めての地域通貨ですが、こうしたシステムで一人でも多くの住民が、ボランティアを通じた街づくりに参加してもらえれば…」と社協職員の越谷賢二さん。



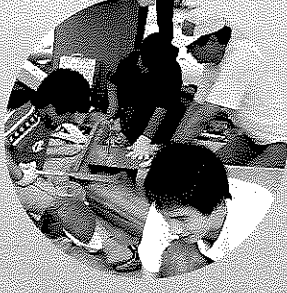
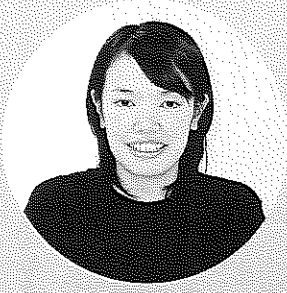
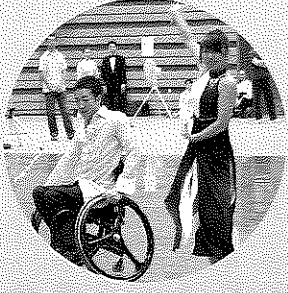
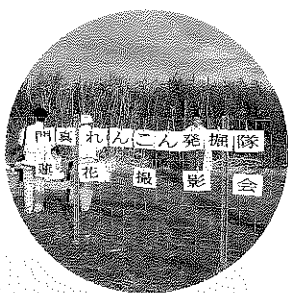
コーディネーターの越谷賢二さん

現在、個人登録を含めて135人の登録ボランティアを組織し

ていますが「この数を増やすとともに、若い人を巻き込んでいくこと」が今後の課題とか。住民が1万に満たない小さな市町村ですが、そのぶん「町をあげての取り組み」に成功していると言えそうです。

特集

若者たちのボランティア、NPO活動



「ボランティア元年」といわれた震災の年の95年から9年、NPO法が制定された98年から6年が経過し、わが国のボランティア、NPOは、その活動領域を大きく広げてきました。市民セクターと、行政セクター・企業セクターとの協働も進み、セクター間のコラボレーションで、さまざまな社会的課題の解決に向けた取り組みも数多くなされています。

その過程では多くの若者が、こうした市民活動に参加するようになってきました。大学のキャンパスで、あるいはそれぞれの地域で、あるいはグローバルに：彼らは、若者ならではのアイデアと行動力を発揮し、多彩な活動を展開しています。そしてこうした若者たちが、未来の福祉社会を担っていくのは間違いありません。そこで今回は、こうした若者たちのボランティア、NPO活動取材しました。彼らの活動から私たち大人が学ぶべきものは、決して少なくないようです。

「世界から戦争がなくなり、誰もが自由に教育を受けられる世の中に」……この8月、東京・有楽町で開かれた「全国高校生の手話によるスピーチコンテ

同年代の中・高生たちと一緒に取り組む活動が楽しい

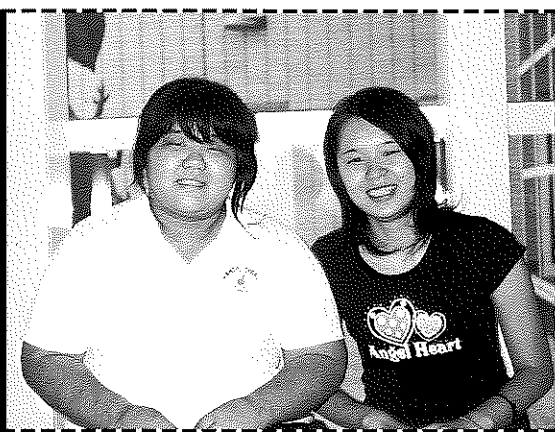
門真市を、若い力で だれもが住みよい 楽しい町に

門真市車イスMAPづくり隊 (かどま〜る)

江夏美鈴さん (17歳) ●写真左

門真れんこん発掘隊

川村智美さん (19歳) ●写真右



スト」で、門真なみはや高校3年の江夏美鈴さんはこう訴えました。

コンテストへの参加は、5月に修学旅行で訪れた沖縄県名護市の国立ハンセン病療養所「沖縄愛楽園」で出会った、高齢の入所者とのふれあいがきっかけでした。戦争で十分な教育を受けられなかった経験を聞き、そこに自分のボランティア体験で得た考えを付け加えて発表。惜しくも入賞は逸しましたが「紀子さまの前でスピーチができ、とてもいい経験になりました」と満足そうに語ります。

幼いときから障害のある友だちが身近にいたため、江夏さんは小学生のときから手話を学び始めました。中学生になってからは、門真市などが主催する講習会に参加するなど、より本格的に。「その頃から、将来は福祉の世界で活躍したいと思うようになっていまし



た」。そんな江夏さんですから、高校は迷わず、福祉が学べる門真なみはや高校に。生徒会の役員に立候補したとき手話で演説したこともあって、「先生から勧められて」今回の手話コンテストに参加したそうです。

すでにヘルパー2級の資格なども持ち、地元でいろんな活動に関わっている彼女ですが、いま熱心に取り組んでいる活動の一つに「門真市車イスMAPづくり隊」(隊長・野村強起さん)の活動があります。これは車いすの人が安心して街を出歩けるよう、お店のバリアを点検・調査し、段差やスロープの有無、車いすで利用できるトイレなどが一目でわかる地図をつくる活動です。交通事故が原因で車いす生活を余儀なくされた野村さんの母校、門真西高校で97年から始まった取り組みですが、いまでは中学生も含めた市内の若者全体の取り組みに発展。江夏さんも高校1年のときから参加していますが、いまでは欠かせない中核メンバーとして活躍しています。

「とにかく、同年代の中・高生たちと一緒に取り組むボランティア活動は楽しいし、また人の役に立つ。将来、それが仕事になるなら、こんな嬉しいことはありません」と顔を輝かせます。福祉の大学への進学を目指しているとのこと、今後は「福祉分野のいろんな仕事を体験したいので、社会福祉士、手話通訳士、精神保健福祉士、高校の教員免許(福祉科)なども取得したい」

と意欲満々。まだまだ若い高校生ですが、どこか頼もしく、そして応援したくなる若手のホープの一人です。

特産物を通じて、 自分たちの住むまちの 伝統や文化を考る



さて門真市にはもう一つ、ユニークな活動に取り組んでいる団体があります。

門真れんこん発掘隊。

このグループは99年、「れんこんの穴から門真が見える」を合い言葉に、門真の特産物である河内れんこんを通して、自分たちの住むまちの伝統や文化を考えながら、地域交流を図ることを目的に結成されました。

発足時の中心メンバーは門真西高校の生徒や教員ですが、いまでは卒業生

や地域の住民、農家の方も参加し、マスコミからも注目されるユニークな活動に取り組んでいます。

門真西高校の卒業生・川村智美さんは、そんな門真れんこん発掘隊の4代目隊長。発掘隊は彼女が高校1年のときに発足しましたが、「門真市もよそから移り住んできた人が多く、レンコンの産地であることも知らない生徒が多かった」とか。そこで自分たちの町を特産品を通じて考えよう...と結成されたわけですが、「実は、蓮池の多くは道路建設用地に予定されていて、毎年夏にきれいな花を咲かせるハスやレンコンも、数年後には姿を消す。景色が大きく変わらないうちに、私たち若い世代の記憶にとどめたい...という思いもあるんです」と話します。

そんな危機感も手伝ってか、隊はいろんなイベントに矢継ぎ早に取り組んできました。蓮池に首まで入る「沈み掘り」の再現、「レンコン料理大会」「れんこんクイズ大会」「郷土料理『蓮根もち』調理・食事会」etc...

こうした楽しい活動はマスコミからも注目され、隊は「探偵ナイトスクープ」をはじめいくつかのテレビ番組に登場し、また大阪商工会議所から「なにわ大賞特別賞」も受賞しました。

「こうした楽しい催しで、一人でも多くの人が自分たちが住む町に愛着を持ってもらえれば」と川村さん。仲良しの江夏さんともども、門真の市民活動を牽引する若きリーダーの一人です。

障害児と交流することで、 今しか学べないことを たくさん教えられました

大阪工業大学「ボランティア教育研究会」
副部長 吉田純さん（21歳）



大阪工業大学「ボランティア教育研究会」の副部長を務める、3年生の吉田純さん（21歳）。18人の部員とともに、主に障害のある人たちとの交流を通じたボランティア活動を行っています。普段は週1回、手話学習会を行い、イ

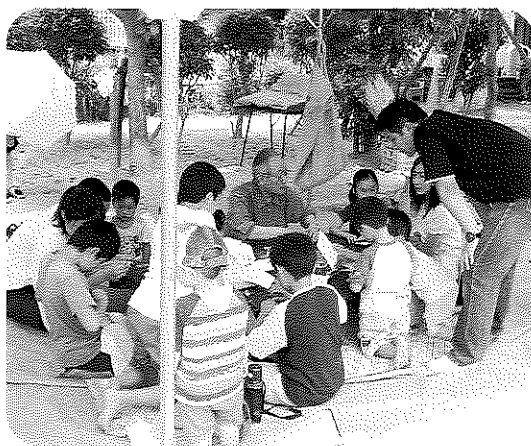
ベントなどで手話コーラスを披露。旭区ボランティアビューローで開かれる「たんぽぽ倶楽部」で障害児と一緒に遊んだり、イベントの手伝いを行っています。また、毎週、大学構内を清掃する「クリーンキャンパス作戦」も実施。

高校時代はボランティアとは無縁の生活をしていたという吉田さん。大学に入学して何かできることはないかと思っていたときに出会ったのが同クラブでした。初めて

ボランティアとして参加したのが「たんぽぽ倶楽部」での活動。そこでそれまで自分が思っていた障害児のイメージが一変したといいます。

「障害児のことを特殊な存在だと思いついていたので、接し方も難しいだろうなと不安だったんです。でも一緒に遊んでみると、一般の子どもたちと何ら変わらない。普通に接すればいいのに、自分で勝手に垣根をつくっていたということがよくわかりました」と。それ以来、積極的に活動に参加するようになりました。

同クラブでは、「つながりを深めよう、のちのちにつなげよう」を目標に、継続した活動を重視。その一つとしてバリアフリーマップづくりに取り組み、



なんばパークスや天神橋筋商店街を障害者の人たちと一緒に調査しています。普段何気なく歩いている道路も、水はけのために傾斜があつて車椅子が動きにくいこと、ちょっとした段差が大きな障害になることなど、多くの発見があつたといいます。

「そんな道でも障害者の人たちはいろいろ苦心しながら車椅子を使っている。その大変さは知っているつもりでも、

実際にはわからないことがたくさんあるというのを学びました。ボランティアは人のためにすると思われがちですが、僕らに見えないことを教えてもらつて視野が広くなるといふ経験をたびたびさせてもらっています」。

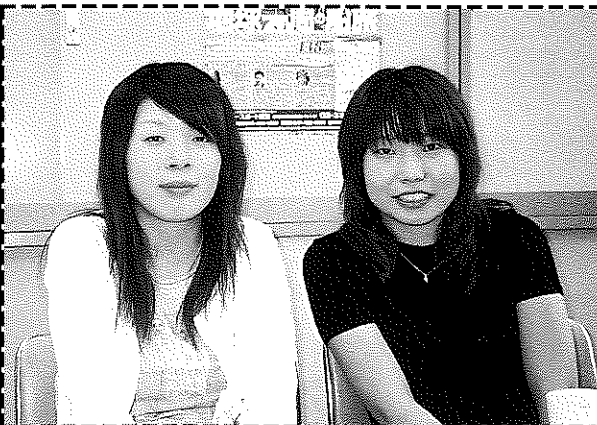
多くの学生は「ボランティアよりバイトのほうが効率的」と考えていて、吉田さんのような存在は残念ながら少数派。「でも働くのは卒業してからいくらでも経験できます。ボランティアの基本である自発的に行動する気持ちや、ひとりよがりでは何もできないこと、みんなと一緒にやり遂げていく大切さなどを学べたことが、大きな財産になっています」と、語ってくれました。

茨木市社会福祉協議会ボランティアセンターは24の登録ボランティア団体を組織していますが、そのなかでも平均年齢が断トツに若いのが、ボランテ

将来は福祉の道に。 だからボランティアで 経験を重ねたい

梅花女子大学ボランティアサークル「たけのこ」

部長 井上愛子さん●写真右
副部長 小原由貴子さん●写真左



「現役の学生だから、年配の方たちのように頻繁に活動はできません。でも、接する子どもたちから甘えられたり、手を引っ張られて『いっしょに遊ば』

「ときにひっぱりだこになりますよ」と茨木市社協職員の村木健さんは語ります。

知的障害児と一緒に遊んだり、肢体不自由者の施設でイベントの手伝いをしたりと活動はいろいろですが、若いボランティアを求めるニーズは多いだけに、



「ボランティアin いばらき」で、「たけのこ」は毎回フリーマーケットをブース出展。このときはもちろん、地域の先輩ボランティア団体との交流も図られますが、「この場で『若い人を希望してらっしゃるんだけど』と活動先を紹介されることも少なくない」とか。

「たとえば車椅子の若い方が、自分と



同年代の若いボランティアさんを希望されるケースが少なくありません。そうした場合、シニアの私たちでは対応できかねます。そこで『たけのこ』さんにお願ひしたりするわけですが、皆さんとても明るく、また責任感を持って対応してくださいます。若い人たちでないとできない活動というのが、やっぱりあるんですね」と先輩ボランティア団体の皆さんからもエールが送られます。

今後は、こうした若いボランティアサークルが、社協ボランティアセンターの登録団体としてさらに加わってほしいものです。

部長の井上愛子さんと副部長の小原由貴子さん、共に福祉学科の2年生。「将来は福祉の道に進みたい。ですからウォーミングをかねてボランティアに取り組んでいります」と明るく語ります。

現在、2回生を中心に23名の部員が結集する「たけのこ」は、平成9年に茨木市社協ボランティアセンターの登録団体になりました。同校は福祉学科があり、部員の多くは福祉学科の学生です。

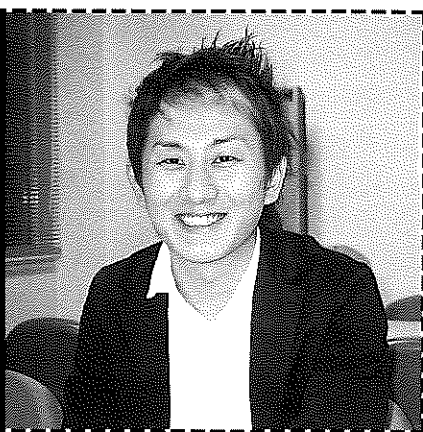
「なんていわれると、つい嬉しくなりま

「たけのこ」は、毎週日曜日の午後2時から、市役所前の広場で活動しています。この場では自分が必要とされているんだという実感が持てる。それが嬉しいです」と井上愛子さん。

一方、宿泊を伴うボランティアを体験した小原由貴さんは、「箕面の福祉施設の夏のキャンプ

「OSAKA NPO アワード」で グランプリを受賞した、 若者中心のNPO

NPO法人 み・らいず
代表理事 河内崇典さん (27歳)



大阪の数あるNPO法人のなかでも、若者中心のNPOとして広く知られているのが、障害者サポートに多彩に取り組んでいる「み・らいず」。それは代表の河内崇典さんがまだ大学一回生だった96

年、友人に誘われて入浴介助のアルバイトをしたのがきっかけでした。

「いいバイトがあるぞ、と誘われたんです。それまでは福祉やボランティアとはまったく縁のない世界で生きてきました。だから正直、いいバイトがあるぞ…の言葉に簡単に乗ったただけなんです」と本人は屈託なく語ります。

しかし始めてみると、お世話する障害者本人やそのお母さんから喜んでもらえる。「次回もよろしくね」と期待されるようになっていったといいます。次第に人間関係と信頼関係が築かれていくうち、河内さんは98年に、障害者の入浴介助やイベントを行うサークルを立ち上げました。友人の友人、そのまた友人…と呼びかけていくうち、やがて同年代の仲間が徐々に集まり、現在のコアメンバーが揃うことに。

「活動は広がっていきましたが、当時は皆まだ学生。そこで当然、卒業後も活動を続けていくか否かについては、悩みましたし、いろいろ議論しました。しかし『今まで続けてきた活動が卒業でとぎれるのは寂しいね、悔しいね』というのが皆の結論だったんです」。

とは言うものの、社会経験のない若者ばかり。この頃から支援費制度のスタートは議論されており、この分野のニーズが飛躍的に拡大するだろうことは予想していたものの、自分たちだけでいきなり法人組織を立ち上げる自信はありません。

そこで彼らは「一年間は充電期間」と

割り切り、「サークルの維持」を担当する一人を残し、ある人は福祉施設でアルバイト、別の仲間は学校に行って福祉の資格を取得する、河内さんは企業に就職してマーケティングやマネジメントの知識を身につける…といった具合に、それぞれが一旦それぞれの道に進み、その経験をやがて設立するNPO法人に活かすべく、一年間は活動から離れることにしたのです。

そして約一年後、メンバーは再結集しNPO法人格の取得を申請。ほどなく2001年10月、NPO法人「み・らいず」が新たなスタートを切りました。

現在、その活動内容は障害者への介護者派遣にとどまらず、毎月の釣り大会や料理教室の開催、学校の現場の総合的学習の支援、本人、家族がくつろげるフリースペースの運営、障害児や不登校児の学習支援（ライオンメイト派遣）など多岐に渡っています。

こうして活動が評価されて2003年には、大阪NPOセンターが主催する



「OSAKA NPO アワード」でグランプリを受賞。その活動はNPOの世界からも高く評価されたわけですが、しかし河内さんはけっして、いまの状況に満足しているわけではありません。

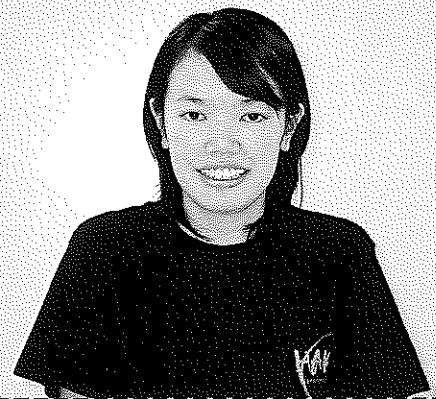
「支援費制度が始まり、最近では障害者福祉について勉強する人も増えてきました。介護保険と同じように市場原理が採用され、業者も参入しています。しかし、障害者のニーズに制度が対応できているのは、実は半分程度なんです。残りは、やはり地域のボランティアな資源が対応していかなければなりません。けれど制度のしほりが年々強くなり、無資格のボランティアではできないサービスメニュー（活動領域）が増えていく。いま一度、障害者支援の原点に戻って、制度のありようを議論していくことも必要だと感じています」。

行政のNPOへのアウトソーシングが増えるなか、NPOとボランティアの原点を大切にしたいという河内さんらこそ、この社会を真の共生社会にしていくパオニアなのかもしれません。

堺市社会福祉協議会では、ボランティア・市民活動の拠点として、「堺市民活動サポートセンター」を7月1日にオープン。さまざまな団体が利用していますが、そのひとつが特定非営利活動法人「SEIN」(サイン)で、代表

NPO活動を支援し、地域の活性化を図りたい

特定非営利活動法人「SEIN」
代表理事 湯川まゆみさん (25歳)



理事を務めるのが湯川まゆみさん(25歳)です。

学生時代にスリランカやオーストラリアなどに出かけて、現地のNGO活動に参加していたという湯川さん。「飲み水を汲むために毎日、片道1時間以上かけて歩かないといけない人たちが、まだたくさんいることを知って大きなショックを受けました。私の生活がいかに恵まれているかを痛感し、これまでの生き方を変えないといけないと思ったんです。遠回りかもしれないけれど、地域の人たちがいろいろなことに関心をもち、NGOやNPOの活動に協力しあえる土壌づくりが必要じゃないかと思いました」。

卒業後も就職をせずに、自分のやるべき道を模索していたという湯川さん。堺市主催のNPOに対する支援活動に取り組む意欲のある人を対象とした講座「NPO支援サロン」を受講したことがきっかけとなって、講座終了後に数人の受講生とともに、今年2月、特定非営利活動法人「SEIN」(サイン)を設立。NPOを支援する活動をスタートさせました。



主な活動は堺市内で3ヶ月に1回発行されているフリーペーパー「そやさかい」の発行。イベントや名



所・旧跡の紹介、ボランティアや助成金情報などが掲載されていて、20代の学生や社会人が中心となって編集が行われています。

同時に、堺市から委託されて、市役所内の「堺市民活動コーナー」を運営。NPOに関する情報提供や講座の運営、市民からの相談に対応するなどの事業を行っています。NPOを立ち上げるための支援や運営の相談にあたるなど、地域におけるNPOの活性化を図っています。

「思ったことが言えて、知らないことは素直に聞ける。これが若さの強みだと思うので、常識にとらわれず、どんどん活動の場を広げていきたいですね。こまったときは必ず助けられる人との出会いがあるので、ピンチはたくさんあったけど、みんな忘れることにしています」と語り、持ち前の明るさで、多くの人を活動に巻き込んできたようです。

ただ、さまざまなボランティア団体と交流を深めてきたなかで、「仲間内で楽しくするだけの閉鎖的な団体もあり、もっと社会に働きかけて、オープンな活動をすればいいのにと残念に思うことがある」とか。ボランティアやNPOの活動が一握りの人たちだけに受け入れられるのではなく、広く市民が参加できるように、知恵を絞っていき

障害のないスタンディングパートナーと、車いすを使うホイールチェアパートナーがペアを組んで踊る車いすダンス。社交ダンスの盛んなヨーロッパで生

車いすダンスという「娯楽」を通じて「特別でない福祉」をめざしたい

ジェネシス オブ エンターテインメント

代表 坪田建一さん(35歳)

鈴木 剛さん(30歳)



▲坪田さん(左) 鈴木さん(右)と活動を支える学生メンバー

まれたと言われていますが、近年、パラスポーツの正式種目の有力候補となってきたこともあって全国で人気が高まっています。

この車いすダンスの普及を通じて、障害のあるなしにかかわらず、みんなが人として輝くことができる社会の実現をめざしているのがジェネシスオブエンターテインメント(以下ジェネシスと略)。

10代から60代までの各世代にわたる約60名の会員が(うち健常者は約30名)、車いすダンスを楽しみながら、教室の開催、福祉関係の催しでのデモンストレーション、また講演・講座の開催などの活動に取り組んでいます。

発足は1997年。友人がバイク

事故で下半身付随になったことをきっかけに、坪田建一さんが活動をはじめ、やがて同じようなバイク事故で車いす生活となった鈴木剛さんが合流。以来、二人を中心にジェネシスは徐々に仲間を増やし、活動の幅を広げてきました。

99年には早くも(財)読売光と愛の事業団より福祉活動奨励賞を受賞。02年には大阪を中心に延べ7市での車いすダンス教



室開設に協力するなど、その活動はまさに、大阪の車いすダンスシーンを牽引してきたと言っていでしょう。

ジェネシスは「会員の70%が10代・20代の若者」というだけに、いまでは社交ダンスのみならず、ジャズダンス、コンテンポラリーダンス(表現)などにも積極的に取り組んでいます。

しかし単に、会員がダンスを楽しむだけでなく、ジェネシスの目的ではありません。冒頭で述べたように「障害のあるなしにかかわらず、みんなが人として輝くことができる社会の実現」が目的で、娯楽をテーマに「健常者と一緒になって、障害者福祉のイメージを大きく変えていきたい」と二人は強調します。

これまで障害者福祉の分野では、スポーツや文化・娯楽は、かならずしも重点が置かれる領域ではなかったようです。「でも、友人がバイク事故で障害者になったとき、それで彼の、スポーツや文化・娯楽面での選択肢が狭まるのが悔しかったんです」と坪田さん。だからジェネシスの合い言葉は「娯楽をテーマに特別でない福祉をめざしたい」。そこで団体の名称も、「起源」を意

味するジェネシスと、「娯楽」を意味するエンターテインメントから名付けたとか。

現在では一般の社交ダンス大会であるスーパージャパンカップの車いすダンス部門で入賞者を出すなど、メンバーの実力も着実にアップしてきていますが、「こうした競技化・スポーツ化だけが目的ではなく、その向こうにある障害者と健常者とのコミュニケーション、そして仲間づくりこそが僕たちの目標です」と坪田さんと鈴木さん。

そして「ありがたいことに最近では、学生のメンバーが主力となって会を支えてくれているんです」とも語る二人。若者たちが切り拓く、新しい障害者運動の形がここにはありそうです。



今年の春に開設された立命館大学ボランティアセンター。「学生に対するボランティアの教育的効果に主眼を置いているのが当センターの特色です」と話すのは、同学大学院卒業生で主事の足立陽子さんです。

「校風としてボランティアへの関心が高いと言っているでしょう。というの

ボランティアの 教育的効果に着目した、 全学的な支援センター

立命館大学ボランティアセンター

主事 足立陽子さん(24歳) ●写真右

主事 桜井政成さん(29歳) ●写真左



は」と、足立さんはデータを示します。

2002年に学生を対象に行った意識調査によると、「ボランティアを現在している」と答えた人が14.0%で、これは全国平均のほぼ2倍。また阪神・淡路大震災の折に学生が主体となってボランティア情報センターが設置された実績(1995年)等もありました。

そんななか、同学産業社会学部では1999年からボランティアコーディネーター養成プログラムをカリキュラム化。また、2004年にはボランティア・スキルマッチング・エージェンシー事業がスタートしています。これは、立命館大学、キリン福祉財団、京都市社会福祉協議会による学術交流協定で、大学と社会をネットワークするボランティア教育プログラムの研究開発と実践を目的とするものです。

校風、実績、そして全学的な支援体制の整備。同センターがボランティア活動を「学びと自己成長の機会」と捉え、大学らしいビジョンに基づいた各種のプログラムを展開し、研究・啓発に力を入れているのは、こうした展開を受けた開設の経緯があつてのことと言えます。

同センターの機能は、大別すると、①ボランティアコーディネーション、②プログラ



▲京都市北区の衣笠キャンパス内にあるボランティアセンター。ポスターやチラシが多数掲示されています。

ム企画運営、③調査・研究・啓発、の3つ。なかでも同センターが最も力を入れているプログラムの企画運営について、足立さんは次のように話します。

「実は本学は元来地域交流活動が盛んです。以前から、学生センターが地域からの申込みを受け付けて学生につながりというシステムが確立されてきましたし、実際、障害児の学童保育や地元のお祭りの手伝いなどの地道な地域交流活動が継続的に行われています。そういった地域との関係を生かしつつ、独自性のある魅力的なプログラムを走らせていきたいと考えています」



▲7月に開催されたボランティアガイダンス。2日間の参加者約400名という盛況ぶりに、学生のボランティア意欲の高さがうかがえます。

また、「他のさまざまな団体はもちろん、近畿の他大学とも連携して、より柔軟で発展的な活動に広げていければ」とは、同じく卒業生で主事の桜井政成さん。大学のボランティアセンター同士が交流し、またプログラムを共有することで、学生ならではの機動力をより有効に発揮させることができると考えるからです。

「そのためには、まずは各大学でボランティアセンターの設置を」と二人は力説します。

立命館大学ボランティアセンターの開設は、京都では、龍谷大学、佛教大学に続いて3校目。「関東では、学生が主体となった複数大学のネットワークが立ち上がっています。関西はまだまだ。でも、京都、大阪、兵庫……関西圏全域で力を合わせれば、きっとすごいことができるはず」と、意欲的。

大学ならではの人的・知的資源を生かしつつ、社協、地元地域、他大学との連携を図る——それぞれの強みを生かしたパートナーシップの展開は、ボランティア界にとっても、教育機関である大学にとっても、新しい発展の方向性を示唆するものと言えそうです。

〈連絡先〉

京都市北区等持院北町56-1 以学館1F

TEL 075-465-1952

FAX 075-465-1982

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/vc/>

(10月開設予定)

ritsve@ritsumei.ac.jp

大阪府内の大学ボランティア窓口一覧

大学名	所在地	電 話	FAX
大阪外国語大学	562-8558 箕面市栗生間谷東8-1-1 学生部学生課	0727-30-5088	0727-30-5086
大阪教育大学	582-8582 柏原市旭ヶ丘4-698-1 学生部学生課学生係	0729-76-3211(代)	
大阪府立看護大学	583-8555 羽曳野市はびきの3-7-30 学生課	0729-50-2111	0729-50-2131
大阪工業大学	535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1 学生課	06-6954-4651	
大阪歯科大学	573-1121 枚方市楠葉花園町8-1	072-864-3111(代)	072-864-3000(代)
相愛大学	559-0033 大阪市住之江区南港中4-4-1 学生課	06-6612-5900	06-6612-7003
桃山学院大学	594-1198 和泉市まなび野1-1 ボランティアビューロー	0725-54-3131	0725-54-3210
摂南大学	572-8508 寝屋川市池田中町17-8 学生課	072-839-9107	072-826-5470
大阪音楽大学	561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8 学務事務部門学生生活担当	06-6334-2131(代)	06-6333-0286(代)
大阪学院大学	564-8511 吹田市岸部南2-36-1 学生課	06-6381-8434(代)	06-6381-8486
大阪芸術大学	585-8555 南河内郡河南町東山469 学生課	0721-93-3267	0721-93-5587
大阪樟蔭女子大学	577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 学生課	06-6723-8181	06-6723-8348
大阪電気通信大学	572-8530 寝屋川市初町18-8 学生部 学生課	075-491-5372	072-825-4581
大阪薬科大学	569-1094 高槻市奈佐原4-20-1 学生課	0726-90-1014	0726-90-1018
関西西大	564-8680 吹田市山手町3-3-35 学生課	06-6368-1154	06-6330-3703
四天王寺国際仏教大学	583-8501 羽曳野市学園前3-2-1 学生課	0729-56-9956	0729-56-9892
大阪国際女子大学	570-8555 守口市藤田町6-21-57 学生課	06-6907-4319	06-6902-8894
梅花女子大学	567-8578 茨木市宿久庄2-19-5 学生部	0726-43-6221(代)	0726-43-3473
関西福祉科学大学	582-0026 柏原市旭ヶ丘3-11-1 学生部	0729-78-0088	0729-78-0377
大阪明浄大学	590-0405 泉南郡熊取町大久保南5-3-1 学生課	0724-53-8222	0724-53-8225
大阪人間科学大学	566-0023 摂津市正雀1丁目4番1号 学生課	06-6381-3000	06-6381-3502
大阪府立看護大学医療技術短期大学部	583-0872 羽曳野市はびきの3-7-30 学生課	0729-50-2111	0729-50-2131
平安女学院短期大学	569-1092 高槻市南平台5-81-1 学生サービス課	0726-96-4904	0726-93-2494
大阪キリスト教短期大学	545-0042 大阪市阿部野区丸山通1-3-61 チャレン室ボランティアコーナー	06-6652-2091	06-6652-2068
大阪工業大学短期大学部	535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1 事務室	06-6954-4398	06-6955-6265
大阪城南女子短期大学	546-0013 大阪市東住吉区湯里6-4-26 事務居	06-6702-9783	06-6704-0996
大阪成蹊女子短期大学	533-0007 大阪市東淀川区相川3-10-62 学生部学生課	06-6829-2541	06-6829-2615
関西外国語大学短期大学部	573-1001 枚方市北片鉾町16-1 学生課	072-856-1721	072-855-5534
相愛女子短期大学	559-0033 大阪市住之江区南港中4-4-1 学生課	06-6612-5900	06-6612-7003
大阪体育大学短期大学部	590-0451 泉南郡熊取町大字野田 ボランティア活動班	0724-53-8815	0724-53-8800
堺女子短期大学	590-0012 堺市浅香山町1-2-20 学生課または社会福祉担当講師	072-227-8814	072-227-4187
大阪音楽大学短期大学部	561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8 学務事務部門学生生活担当	06-6334-2131	06-6333-0286
大阪学院短期大学	564-8511 吹田市岸部南2-36-1 短期大学事務室	06-6381-8434	06-6381-8499
大阪産業大学短期大学部	574-8530 大東市中垣内3-1-1 学生生活課	072-875-3001	072-871-6210
大阪千代田短期大学	586-8511 河内長野市小山西町1685 学生課	0721-52-4141	0721-52-4747
関西女子短期大学	582-0026 柏原市旭ヶ丘3-11-1 学生部	0729-77-6561	0729-77-4653
金蘭短期大学	565-0873 吹田市藤白台5-25-1 学生部学生課	06-6872-0607	06-6872-7724
大阪薫英女子短期大学	566-8501 摂津市正雀1-4-1 学生課	06-6383-6441	06-6383-6472
四條畷学園短期大学	574-0011 大東市北条4-10-25	072-879-7231	072-876-4515
大阪国際女子短期大学	570-8555 守口市藤田町6-21-57 学生課	06-6907-4319	06-6902-8894
梅花短期大学	567-8578 茨木市宿久庄2-19-5 学生部介護準備室	0726-43-6221	
東大阪短期大学	577-8567 東大阪市西堤学園町3-1-1 ボランティアクラブ	06-6782-2884	06-6788-1277
藍野学院短期大学	567-0012 茨木市東太田4-5-4 学生部	0726-27-1711	0726-27-1753
大阪明浄女子短期大学	590-0493 泉南郡熊取町大久保1216-1 学生課	0724-53-8222	0724-53-8225
関西鍼灸短期大学	590-0482 泉南郡熊取町若葉2-11-1 教務課学生係	0724-53-8251	0724-53-0276
大阪府立工業高等専門学校	572-8572 寝屋川市幸町26-121-10-40 総務課学生係	072-820-8578	072-821-0134

※本一覧は文部科学省委嘱「平成13年度ボランティア情報の収集・提供の体制等に関する調査」の一環で行われた設問に対する回答をまとめたもので、平成13年11～12月時点のものの中から大阪府内の大学を抜粋したものです。

資料提供：「独立行政法人 日本学生支援機構」（当時財団法人 内外学生センター）

ソニーマーケティング学生ボランティアファンド

ソニーマーケティング株式会社の学生ボランティアを支援するファンド（基金）です。

大学生が中心のボランティア活動に対し、20グループへ各25万円（上限）を助成。

募集期間は2004年9月27日～11月26日。

問合せは明治学院大学ボランティアセンター内『ソニーマーケティング学生ボランティアファンド』事務局まで

TEL&FAX 045-863-0384（月～金の10時～17時）

詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.sony.jp/>

9月29日の台風21号による
被災者支援のための義援金募金情報

皆様のご協力をお願いいたします。

新居浜市社会福祉協議会
災害ボランティアセンター

TEL 0897-328129

取扱金融機関 全国の郵便局

口座番号 016990010375005

口座名義 社協災害ボランティアセンター

取扱期間 平成16年8月30日～10月29日

三重県健康福祉部
生活保障室援護・保護グループ

TEL 059-22412286

取扱金融機関 全国の郵便局

口座番号 00880015150

口座名義 社会福祉法人三重県共同募金会

取扱期間 平成16年10月1日～11月30日

「平成16年7月福井豪雨災害」に関しては大阪府市町村社協会会長（福祉救済活動資金）および大阪府社協より活動資金を、また府社協施設部会でもカンパを募り福井および7・13新潟豪雨災害についてでも義援金を送金いたしました。また福井県社協からの要請に基づき美山町水害ボランティアセンターへ大阪府内の社協からコーディネーターを派遣し現地支援にあたりました。

なお、「三重県9・29豪雨災害」についても大阪府市町村社協会会長（福祉救済活動資金）より活動資金を送金いたしました。

今回は地域に密着した活動をレポートしていただきました。

平成16年 9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

資源やごみは、右欄の項目の順に並べてください。

ゴミ分別表がカラーになり、とても見易くなりました。

豊能町ボラ連にも積極的に参加をし、多くの人との出会いを大切にしています。これからは、ますます高齢化が進みライ

年間の活動のなかで、地域の方々よりの要望(特に高齢の方)にこたえるべく、ゴミ分別表の色彩化にも取り組みました。ゴミ減量化については、講演会も開催し、環境に関する認識と教育を推進しています。

社協議会(車椅子、時計)、図書館、小学校(贈書)、教育委員会(防犯ベル)等に寄贈してきました。

リサイクルバザーにおいては、地域の方々より、暖かい真心の品々をいただき、ボラレンフェスタと豊能町祭に参加しています。その時得た収益金は、地域施設へ還元、社会福祉協議会(車椅子、時計)、図書館、小学校(贈書)、教育委員会(防犯ベル)等に寄贈してきました。



生涯青春！ ボランティアで地域社会に貢献

豊能町



こんなボランティア 見つけた！

門真市

フワークの取り組みが問われてくる昨今、ボランティア活動に参加できる喜

びを生涯青春に置き換えて楽しんでみたいと考えております。

門真市の三つの環境ボランティアグループを紹介します。

「みどり会」は、「花いっぱい運動」で道行く人に季節の花を楽しんでもらい、また、生ごみをリサイクルして作った堆肥を公園の樹木に施したり、栄養たっぷりの土を希望する人に配ったりしています。

「大光会」は、リサイクルした生ごみ堆肥を学校の花壇や畑に入れて、総合学習の一環として、学童と共に、さつまいも作りに挑戦し、PTAや、先生方に喜ばれています。

そして、今年5月に発足した「花だんごネットワーク」は、中野利佑会長以下64名の会員が丸となって、桜並木の水路の浄化活動に取り組んでいます。大阪府内みどり百選に選ばれている、薫蓋樟(樹齢千年を超えるクスの大樹)と砂子の桜並木は、ともに門真市の三ツ島地区にあります。桜の頃には、この桜並木の足元の水路に花見舟を浮かべて、市民の憩いの場となっていますが、その水路の汚染と、悪臭が、桜の美しさを半減。そこで常々、頭を



水路に「花だんご」を投下する

悩ませていた人たちが、発起人となり、何とか桜並木にふさわしい水路にしようとして立ち上がりました。まだ活動が始めて日が浅いのですが、それでも、その効果は徐々に現れてきています。まず、汚染している水辺に生息する微生物の姿が消えて、メダカや小魚の姿が多く見られるようになったこと、毎年夏場にはヘドロの悪臭がひどく、窓を開けられないと言っていた近隣に住む

6年間毎朝、小学生登校時の交通安全の指導と朝の挨拶

南河内郡河南町大宝にお住まいの木

こんなところにも人の善意



街角で見つけたボランティア

— 河南町 —



“花だんご”とは河川浄化資材 “EM土だんご”のこと

人たちが、今年は臭わないと言われたことなどです。といっても、縦横に張り巡らされている水路の上流や側溝からは、常に生活廃水まじりの汚水が流れてきており、一朝一夕にはいかないうちにも事実です。浄化活動している面積は、水路の全体面積の万分の一にも

満たない現状なので、まだまだ先は長いのですが、会員一人一人の“美しい水路に蘇らせよう”との熱き思いが続く限り、いつの日か“小鮒つりしかの川”を子や孫に残してゆけると信じて、花だんご作りをしています。

※“花だんご”とは、水路を美しくする為の資材、EM土団子のことを、私たちは、桜並木に因んで“花だんご”と命名しています。(NHKで放映された、道頓堀川を美しくする会“は、元氣玉”と名づけておられるようです)。各会の連絡先………

みどり会
0728820990 (八木)
大光会
0728823053 (岡田)
花だんごネットワーク
0728811287 (平井)

下昭さん(75歳)は、平成10年4月から、子どもの登校時(朝7時30分から約1時間)に、殆ど休むことなく毎日通学路に立ち、交通安全の指導と朝の挨拶・対話をされています。通学路を通る一人一人に、交通安全を気遣いな



がら、大きな声で「お早う」と……時には子どもの肩に手を掛けながら声をかけます。子どもたちは大きな声で「お早うございます」と返します。何と健康的な、微笑ましい光景でしょうか！

単なる交通安全だけでなく、元氣な朝の挨拶、簡単な対話に大きな意義があるように感じました。子どもたちは、この木下さんから大切な何かを学んでくれることでしょう。このような地道な長期にわたる善行は、誰にでも出来るものではありません。ご本人は、「子どもが好きで、また自分の健康のためだ」と言われますが……。

ボランティアはふれあいの場

住民による防犯パトロールで空巣を防止

南河内郡河南町大宝地区では、昨年春から夏にかけて「空巣狙い」が頻繁に発生し、これを防止するために昨年7

月から、住民による自発的な防犯パトロールが実施されています。その結果、その後「空巣狙い」の発生がなくなり、住民の皆さんから感謝されています。

このパトロールは、防犯だけでなく、住民相互のふれあいの場として大きな意義があったとのことで、参加されている方から「当初は、見知らぬ、道で顔をあわせても挨拶もしたことのない人の集まりでしたが、今では、お互いに親しい間柄になり、楽しく活動しています。また、パトロール中に出会う人との会話……「こんにちは」「いつもご苦労さまです」は、「心地よい・後味のよいものです」との声が多く寄せられました。

近隣の者同士が、お互いに親しくなることは、地域ぐるみの支えあい・助け合いの第一歩ではないでしょうか。このようなグループが各所に出来、それが更に大きな輪になれば、どんなに素晴らしいことでしょうか。

(河南町 玉井 敬二)





泉州

暮らしの「困った」をサポートする カーペンタークラブ

堺市

堺市の泉北ニュータウンで、「二人暮らしや高齢者に快適な住まいを」をキャッチフレーズに、木工家具の補修や庭木の手入れ、電球や水道パッキンの取り替えなど、日々の暮らしの「困った」を手助けしているのがカーペンタークラブ。退職サラリーマンの前川康治さん(68歳)を中心に、現役時代のキャリアを地域活動に活かす取り組みが進められています。

現在のメンバーは、建築設計や木工家具、庭木の剪定や鍵修理など、いろいろな得意分野をもつ50代から70代の13人。料金は2時間で終わる程度の活動を1回1000円で引き受け、材料費は依頼者負担となっています。

「退職後、何かお年寄りのサポートを...と考えていたんですが、ひとりでは限界があります。そこで一緒に活動しませんか」と仲間を募って会を立ち上げました」と前川さん。

活動は徐々に地域に知られるようになり、いまでは月に20件以上の依頼が寄せられるとか。申し込みがあると、まず現場に赴き、工事プランとメンバーを決めて2週間以内には仕事を片付けるようにしています。「ボランティアでも手を抜いた仕事はできない」と、毎月の定例会では技術向上のための勉強会を開き、また一人暮らしの女性宅へは女性メンバーの同行を原則にするなどの配慮も欠かしません。

「依頼者に喜んでいただくと同時に、自分たちの健康維持にも役立ちます」とメンバーの皆さん。こうしたシニアの活動が、他の地域でも取り組まれることを望みたいものです。

情報コーナー

第35期 初心者のためのボランティアとはじめ講座

ボランティアをやってみようかな?と思うあなたへ...

なにか始めたいな、と思っているあなたへ...私にできるかな?と迷っているあなたへ...

この講座は、そんなあなたにピッタリの入門講座です!

日時 11月10日より毎週水曜日 18時45分～20時45分 全6回

ただし一日体験プログラムのみ11月28日(日) 9時45分～16時30分

会場 大阪ボランティア協会(大阪市北区同心1-5-27)

費用 一般 4000円 大阪ボラ協会員・学生 3500円

問合せ・申し込み 社会福祉法人大阪ボランティア協会市民エンパワメントセンター(担当/佐久間)

TEL 06(6357) 5741
FAX 06(6358) 2892

東大阪ふれあい広場

日時 10月24日(日) 10時～15時
会場 総合福祉センター

内容 高齢者や障害者の作品展示、手話・点訳体験、ボランティア活動の紹介、バザー、模擬店、演芸など(バザー物品の提供も併せてお願いします)。

問合せ・申し込み 東大阪社会福祉協議会市民福祉活動センター(ボランティアセンター)

TEL 06(6789) 5550
FAX 06(6789) 5611

ボランティア基金 チャリティコンサート

出演 奈良フィルハーモニー管弦楽団
日時 12月4日(土) 14時開演(13時開場)

場所 東大阪市立市民会館 市民ホール
協力券 一般 前売り1800円(当日2000円) 高校生以下 前売り800円(当日1000円)

(当日1000円)

問合せ 東大阪社会福祉協議会市民福祉活動センター
TEL 06(6789) 5550

参加者募集!

精神保健福祉ボランティア講座
日時 11月12日(金)、19日(金)、26日(金)のいずれも13時30分～15時30分

場所 藤井寺市立福祉会館
内容 精神障害者の家族の話、当事者の話、メンバーによる音楽演奏、ボランティアについて等

受講料 一講座100円
問合せ先 精神障害者地域生活支援センターわつと

TEL 0729(30) 0733

(10/30までお願いします。日・祝除く)

主催 羽曳野・藤井寺 精神保健福祉ボランティア講座実行委員会 羽曳野市社会福祉協議会 藤井寺市社会福祉協議会 精神障害者地域生活支援センターわつと

第7回広がり!

ボランティアの輪inみのおフェスタ
いきいき祭り

年に一度のボランティアアフェスティバル。スタンパライに参加すると豪華景品もあります!

日時 11月13日(土) 10時～15時 雨天決行 入場無料

場所 みのお市民活動センター(真面目マーケットパークウエスト2階)

内容 木工細工、ぶんぶんコマづくり、手話体験、アートバルーンづくり、シニア体験、パネルシアター、フリーマーケットなど43団体が出店

主催 箕面市社会福祉協議会
広がり!ボランティアの輪inみのおフェスタ実行委員会

問合せ 箕面市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL 072(749) 1535

大阪府内のボランティアセンター一覧

市町村名	所 在 地		電 話	FAX
北 摂				
池 田 市	563-0041	池田市満寿美町6-23	072-753-8858	072-753-3444
茨 木 市	567-0888	茨木市駅前4-7-55 茨木市福祉文化会館内	072-627-0033	072-627-0434
島 本 町	618-0022	島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
吹 田 市	564-8555	吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202
摂 津 市	566-0022	摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館内	06-6318-1128	06-6383-9102
高 槻 市	569-0067	高槻市紺屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209
豊 中 市	561-0881	豊中市中桜塚2-28-7 豊中市立福祉会館内	06-6848-1000	06-6841-2388
豊 能 町	563-0101	豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
能 勢 町	563-0341	能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623
箕 面 市	562-0036	箕面市船場西1-11-35	072-749-1535	072-727-3590

河 北				
交野市	576-0034	交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3738
門真市	571-0064	門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
四條畷市	575-0054	四條畷市中野新町11-31 四條畷市立福祉コミュニティセンター内	072-878-1210	072-878-6888
大東市	574-0037	大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
寝屋川市	572-0036	寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
枚方市	573-1191	枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内	072-841-0181	072-841-0182
守口市	570-0083	守口市京阪本通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134

河 南				
大阪狭山市	589-0021	大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-1761	072-366-7407
柏原市	582-0018	柏原市大泉4-15-35	0729-72-6760	0729-72-6760
河南町	585-0014	河南町大字白木1387 やまなみホール内	0721-93-6222	0721-93-6550
河内長野市	586-0041	河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
太子町	583-0991	太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
千早赤阪村	585-0041	千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内	0721-72-0081	0721-70-2037
富田林市	584-0037	富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
羽曳野市	583-8585	羽曳野市誉田4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	0729-58-2315	0729-58-3853
東大阪市	577-0054	東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-5611
藤井寺市	583-0035	藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	0729-38-8220	0729-38-8221
松原市	580-0015	松原市新堂1-589-6 松原市立総合福祉会館内	072-333-0294	072-336-0806
美原町	587-0002	美原町黒山782-10 美原総合福祉会館内	072-362-3939	072-362-1798
八尾市	581-0018	八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	0729-25-1045	0729-25-1161

泉 州				
泉大津市	595-0026	泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
和泉市	594-0041	和泉市いぶき野5-1-7 アイ・あいロビー内	0725-57-0294	0725-57-3294
泉佐野市	598-0007	泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	0724-64-2259	0724-62-5400
貝塚市	597-0072	貝塚市畠中1-18-8 保健福祉合同センター内	0724-39-0294	0724-39-0035
岸和田市	596-0076	岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立福祉総合センター内	0724-30-3366	0724-30-3367
熊取町	590-0451	熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	0724-52-6001	0724-52-2658
堺市	590-0078	堺市南瓦町2-1 堺市総合福祉会館内	072-232-5420	072-221-7409
泉南市	590-0521	泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	0724-83-0294	0724-83-0294
高石市	592-0011	高石市加茂1丁目20-12	072-261-3656	072-261-9375
田尻町	598-0091	田尻町嘉祥寺883-1	0724-66-5015	0724-66-8841
忠岡町	595-0812	忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
阪南市	599-0292	阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	0724-71-5678	0724-71-7900
岬町	599-0303	岬町深日3238-24	0724-92-0633	0724-92-5701

ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険			
補償内容	補償金額	ボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。	
		Bプラン	Cプラン（天災担保）
		死亡・後遺障害 2,445.6万円 入院（1日あたり）8,700円 通院（1日あたり）5,600円 手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	死亡・後遺障害 1,102.4万円 入院（1日あたり）5,900円 通院（1日あたり）3,800円 手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額
		特定感染症 補償します 天災 ×	補償します 補償します
損害部分	賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 4億円
		対物	対人、対物共通 最高 4億円
見舞金	死亡	死亡 30万円	死亡 30万円
掛金		ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ） 500円 700円	
加入できる人や対象となる活動		・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む	
保険有効期間		毎年4月1日から翌年3月31日まで （中途加入の場合は受付日の翌日から）	

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険				
補償内容		ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。		
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	I 型（宿泊なし）	II 型（宿泊あり）
			死亡	500万円
			後遺障害	15～500万円
			入院（1日あたり）	3,000円
			通院（1日あたり）	2,000円
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額			
賠償部分	対人	1 名あたり 1 事故あたり	最高1億円 最高2億円	
	対物	1 事故あたり	最高500万円	
見舞金	死亡	本人の		
掛金	I 型		II 型	
	A区分	30円	1泊2日	248円 4泊5日 328円
	B区分	128円	2泊3日	256円 5泊6日 336円
	C区分	251円	3泊4日	264円 6泊7日 344円
加入できる人や対象となる活動		ボランティア団体や市民団体が主催する行事 （スポーツ活動や自助活動も含む）		
保険有効期間		行事期間中 （開催 1 週間前までに受付が必要）		

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険				
補償内容		ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。		
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	Aプラン	Bプラン
			死亡 202万円	死亡 500万円
			後遺障害 6～202万円	後遺障害 15～500万円
			入院（1日あたり） 3,000円	
			通院（1日あたり） 2,000円	
手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				
賠償部分	対人	1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円	1億円 2億円	
	対物	500万円		
見舞金	死亡本人の			
掛金	Aプラン		Bプラン	
	4,900円		6,300円	
加入できる人や対象となる活動		営利目的ではないが利用者から実費を超える報酬を得ている活動、団体		
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)		

		移送サービス活動に 移送中事故傷害保険				
補償内容		移送サービス事業の活動中に、車輛に搭乗中の加入者や利用者ケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。				
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	I 型（車輛特定）	II 型（車輛不特定）		
			死亡	266.1万円	死亡	192.4万円
			後遺障害	7.9～266.1万円	後遺障害	5.7～192.4万円
			入院（1日あたり）	3,000円		
			通院（1日あたり）	2,000円		
賠償部分	対人	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				
見舞金	死亡本人の					
掛金	I 型		II 型			
	2,000円 （車定員1名あたり）		2,000円 （記名利用者1名あたり）			
加入できる人や対象となる活動		移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで （中途加入者は翌月15日～）				

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com

大阪金融公務部 第四課

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9 TEL.06-6233-1536 FAX.06-6233-0204